

クリニック開院 20 周年祝宴を終えて

村口きよ女性クリニック院長 村口喜代

去る 6 月 9 日「村口きよ女性クリニック 20 周年記念祝宴」を開催いたしました。ようやくここまで辿りつけたことに安堵するとともに、たくさんの方々にご支援を賜りましたことに、改めて感謝申し上げます。

1999 年 6 月「女性に優しい、女性が元気になれるクリニック」をめざしてスタートしました。たまたまこの年は「男女共同参画社会基本法」「低用量ピルの認可」「性感染症新法」ができ、日本社会が新たな立ち位置で、「女性の人権」に配慮した社会をめざしてギアチェンジした年でした。男女平等を願って生きてきた私にとっては幸運な巡り合わせでした。行政分野では、すでに婦人から女性に呼び名が変更になっており、レディースではなく「女性クリニック」の名称としたのも、私なりのこだわりでした。

当時、日本社会では性開放に拍車がかかり、無防備な性行動の結果として望まない妊娠、性感染症が急増し、クリニックの診療もその対応で多忙を極めることになりました。診断し、治療することだけに止まらず、外来診療の中に再発予防のための保健指導・カウンセリングを位置づけることは急務の課題となりました。医師を中心とした看護職との関係を柱に、事務職等全職員との民主的な連携体制の構築に苦心してきました。定例の院内研修会、そして医師の学会活動に止まらず、看護職による日本思春期学会での演題発表を続けてきました。こうした活動は日常の診療活動を振り返ることであり、全国の医療関係者からのコメントをいただくことで、専門職としての自信・生きがいに繋がったと思われまじ、医療の質を向上させたと自負しております。一方でそうした活動を支えるためには、患者情報をしっかり集計・管理する部門の養成が不可欠でした。小さいクリニックながらも、ここまでやれてきたことは素晴らしいことだと思います。

2008 年 9 月からは「きよクリニュース」を発行してきました。医療を行う側と医療を受ける側、双方の信頼関係を築くためのツールとして続けてきました。この 4 月で 60 号に達し、20 周年の記念として一冊にまとめました。「村口きよ女性クリニック」の歴史がぎゅっと詰まった貴重な記録・財産です。この 20 年間で日本社会の性行動のあり様が急展開してきたことなど、興味深いものがあります。いろいろ思い出しながら読んでいただければ嬉しいです。

20 周年の節目の時に、これまでを振り返りご報告させていただきました。これからも一層のご支援・ご鞭撻の程をよろしく願い申し上げます。



祝 開院 20 周年に寄せて



クリニック監事 国乗和夫さん

村口喜代先生、開院 20 周年お目出とうございます。監事として年 2 ～ 3 回寄らせていただいておりますが、都度前進され新しい感動をいただいております。開院される時、施設名を「女性クリニック」にしますと言われ、「え？」と、ちょっと違和感がありました。しかし今考えますと、20 年前から産婦人科のみならず、女性の「心と身体」を総合的に診断する女性総合診療所という考えをお持ちだったのが理解できました。日本思春期学会などへの定期的な研究発表と「きよくりニュース」による発信により、その体制が整っていると思います。

益々のご活躍を！



仙台市立病院名誉院長
東岩井久先生・妻
東岩井孝子さん

きよ先生との出会いは大学病院で三女を出産した 45 年前になります。この度、開業 20 周年のお祝いの会にお招きいただいた事たいへん感慨深いものがあります。

時を経て、市立病院で主人が先生と一緒に勤務する事になりました。昼夜を問わない勤務の連続であったと思います。先生は家事もおろそかにしない方ですから、両立は並大抵の事ではなかったかと思えます。

お宅では、至さん、きよさんと呼び合うそうですが、お祝いの会でも、微笑みあうアイコンタクトがとてもステキなお二人でした。元気に駆け廻るお孫さんの礼くんのキラキラした瞳が、村口家の将来を物語るようでとても印象的でした。



坂総合病院名誉院長
村口至 先生

きよ院長とかわした話題の変遷を思い浮かべているところです。オープン後しばらくはハイティーン・ローティーンの妊娠でした。中学生や高校生の妊娠をめぐり、相手の男性や親との関わりに心を痛めたとのこと、家庭内で孤立した子供の姿が浮かびました。性教育講演や大学での「人間と性」の講義に飛び回っていました。やがて街中で活性化した性産業に関わる女性の性感染症の話し、女性が自立する道の険しさを感じました。最近妊娠中絶はひとりの半数以下に減少し“sexless”時代とか。日本社会もリーマンショックから抜け出したはずが、とんでもない“格差社会”となり「貧困」を背景にした中高年世代の孤立社会にどう対応するのか。「きよくり」の新たな挑戦が楽しみです。そろそろ楽させてあげたいが・・・。



看護師主任 早坂恵

私がクリニックに入職し 10 年目になりました。前任者が突然やめることになり、平成 29 年 7 月から看護師主任を務めてきました。看護師 3 人の体制でのまとめ役、いかに連携を図るか、試行錯誤でした。外来診療とは、日常生活に隣接したものであり身近な医療です。病気の治療はもちろんですが、時にはその背景にある人間関係などが大きく関係しており、悩み相談を受けたり、じっくり傾聴する時間はとても重要になります。保健指導やカウンセリングを行うことで、人手が足りなくなることもあり、また自分だけでは対応しきれない相談もあります。年齢も人生経験も異なるスタッフ同士が補い合いながら、より良い医療を目指してクリニックと共に成長していきたいと思えます。



患者情報管理 柴田泰子

私は 2001 年に入職し、今年で 19 年目となりました。この間、クリニックの激動とともに自分自身にもいろいろな変化がありました。一言、喜代先生、そして村口きよ女性クリニックに出会えたことは私の人生の中で最も大きな幸運であり、今の自分があるのはそのお陰です。何も分からずふわふわと過ごしていた 20 代から、何度か溺れかけつつもなんとかここまで来たように思います。先生はいつも新しいことに挑戦し、その都度迷い、悩み、決断されています。その姿を近くで拝見できることがどんなに大きな学びであるか、その感謝を言葉では言い尽くせません。喜代先生、これからはあまり無理なさらず（難しいかもしれませんが・・・）、お体に気をつけて走り続けてください。

臨時休診

- 7月2日(火)の午後は、都合により休診となります。
- 8月11日(日)から 15日(木)はお盆休みとなります。
- 8月24日(土)は、第38回日本思春期学会参加のため休診となります。

